

雑木林の虫たち

観察しよう

初夏の雑木林を歩いていると、円筒状に巻かれた木の葉が落ちていたり、こすえに同じような巻き筒が下がっているのを良く見かけます。これは、オトシブミという昆虫のつくった卵の入れ物で、幼虫時代の食料兼住居であり、さらに蛹化場所となります。この材料となる葉は、クヌギ、コナラ、シデ類、エゴノキなどです。

葉が急に生い茂ると、樹木の下は薄暗くなってきます。その頃、雑木林には、蝶が飛来します。また、クヌギやコナラなどの樹液を吸いに昆虫が飛んできます。カブトムシ、ノコギリクワガタ、カナブン、ゴマダラチョウ、スズメバチなどです。

秋になると、ウマオイ、ササキリなどの鳴く虫を見つけることができます。そして冬の雑木林では、寒い冬を過ごすために昆虫が様々な工夫をしています。昆虫には、まゆや卵などで越冬するものがたくさんいます。葉が落ちた枝先には、うす緑色をしたウスタビガのまゆがあります。枝の股には、1cmほどの黒褐色の斑のあるイラガのまゆが付いています。ススキやアスマネザサなどの枝にはカマキリの卵塊がみられます。

生きものの生活や、自然の仕組みを理解するには、続けて観察することが必要です。毎月同じ場所で観察していくと、同じ場所でも季節によって、様々な生きものが利用していることがわかるでしょう。



武蔵野の雑木林

「昔の武蔵野は萱原のはてなき光景を以て絶類の美を鳴らして居たやうに言ひ伝へてあるが、今の武蔵野は林である。林は実に今の武蔵野の特色といっても宜い」 国木田独歩は、明治31年に著した「武蔵野」の中で、当時の武蔵野の姿をこのように描いて称賛しています。

武蔵野に広がっていた雑木林は、薪や炭を得るために、15~20年の間隔で伐採され、その切り株から出た芽が育てられてきました。こうして繰り返し利用されてきたため、切り株から芽を吹く力の強いコナラやクヌギなどの樹木だけが、株立ちの樹形となって残っているのです。また、毎年のように下草刈りと落ち葉掃きを行って、集めた落ち葉や下草を田畑の肥料として使うため、よく手入れされた雑木林の中は、比較的明るくなっています。

雑木林は、自然を破壊することなく、その力と性質をコントロールして、継続した利用を図ってきた見事な知恵が生み出した風景ともいえます。燃料革命などによって、雑木林が農用林や薪炭林として果たしてきた役目が失われてきたとしても、私たちの祖先が工夫と愛情をもって育て、人々の生活と共に維持されてきた林なので、大切にしたいものです。



「雑木林のみち」は10コース



次の10コースを「雑木林のみち」として選定しました。

コース名	愛称	延長	風景と特徴	位置
① 清瀬中里コース	広野と街道のみち	10.5km	畑の広がりと屋敷林	清瀬市
② 松山・青葉町コース	森のこみち	5.9km	大平地林なごりの林	清瀬市・東村山市
③ 黒目川・柳窪コース	屋敷林のみち	6.3km	黒目川源流の屋敷林	東久留米市
④ 小山・金山コース	丘のこみち	5.0km	黒目川崖線の雑木林	東久留米市
⑤ 南沢・南町コース	里のみち	5.9km	湧水と新田集落風景	東久留米市
⑥ 玉川・野火止コース	用水の散歩みち	6.2km	用水沿いの雑木林	小平市・東大和市
⑦ 国分寺コース	みずかみのみち	4.7km	崖線の樹林と湧水	国分寺市
⑧ 矢川・青柳コース	せせらぎのみち	5.9km	崖線の樹林と湧水	国立市・立川市
⑨ 野川・深大寺コース	ハゲの散歩みち	5.2km	野川緑道と崖線樹林	三鷹市・調布市
⑩ 調布若葉町コース	こもれびのみち	4.6km	入間川の段丘崖樹林	調布市・世田谷区

「雑木林のみち」へようこそ

■「雑木林のみち」とは

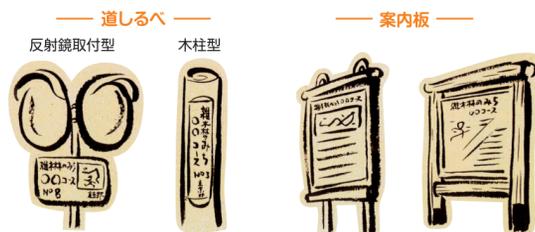
東京都は多摩東部地域に残る雑木林を保全し、この雑木林を中心とした武蔵野らしい風景をつづる道を「雑木林のみち」として選定しました。コース周辺に残る平地や崖線の雑木林を、都民の貴重な財産として維持し、親しんでいただくことを目的としています。

■「雑木林のみち」の特徴

- 「雑木林のみち」のコースは次のような点に留意して選定しました。
1. コースの周りに雑木林や畑が比較的良く残っていたり、水辺に沿って歩けるなど、散策や自然観察に向いている。
 2. 保全地域や保存樹林などに指定され、武蔵野の風景が守られている。
 3. それぞれのコースは、半日あればゆっくり散策できる。
 4. 電車やバスなどの交通の便がよい。

■「雑木林のみち」の歩き方

「雑木林のみち」は、この地図のコースに沿って歩いてください。地図に標示されたコース沿いには、ところどころに次のような案内板や道しるべが設置されています。なお、保全地域や公園などコース外であっても散策してみると、新たな発見があるかも知れません。



ここに注目!黒目川・柳窪コース

黒目川の緑道をたどり、うっそうとした屋敷林が続く柳窪の旧集落一帯を訪ねるみちです。

黒目川の緑道を散策しながら源流部までさかのぼると、柳窪の広大な旧家の生垣や屋敷裏の竹林、見上げるようなケヤキの大木群、神社、道端の庚申塔や石仏など、武蔵野の風景がそっくり残っています。



1 黒目川の緑道と源流部

黒目川は、小平豊園の中にある「さいかち窪」と呼ばれる窪地に端を発し、東久留米市から埼玉県を流れ、荒川に注ぐ一級河川です。コース沿いの緑道は東久留米市が整備を進め、散策に適したものとなっています。

2 柳窪緑地保全地域

柳窪の旧集落に残る寺社林や屋敷林のうち、約1.2haが「東京における自然の保護と回復に関する条例」に基づき、平成7年3月、柳窪緑地保全地域として指定されました。ケヤキ、シラカシなどの大木が多く、一種荘厳な樹林地となっています。

3 野火止用水歴史環境保全地域

野火止用水は、今から約360年前の承応4年(1655年) 徳川幕府老中の松平伊豆守信綱によって開削された用水路で、玉川上水の分水です。昔は、飲料水や灌漑用水として使われていましたが、昭和48年には玉川上水からの分水が停止されました。

流れが途絶えて間もなく「再び野火止用水にいのちを」という声が高まり、東京都はこれに応えるため昭和49年12月に隣接する雑木林とともに歴史環境保全地域に指定しました。そして、下水処理水を更に浄化した水の活用による「清流復活事業」を実施し、昭和59年に流れがよみがえりました。

4 万年橋の大ケヤキ

野火止用水にかかる万年橋わきのケヤキの大木は、東村山市の天然記念物に指定されており、その根は、野火止用水をまたくように張っています。



3 黒目川・柳窪コース

屋敷林のみち

黒目川・柳窪

雑木林のみち

東京都

雑木林のみち

黒目川・柳窪コース 東久留米市・東村山市 延長6.3キロメートル

交通：池袋から西武池袋線で30分清瀬駅南口より
花小金井駅行きまたは下里団地行きバス「竹丘南団地」下車
「恩多町五丁目」バス停から清瀬駅または久米川駅へ

雑木林のみち・黒目川・柳窪コース

登録番号 (4) 67号

環境資料 第34062号

編集年月 令和5年3月

発行年月 令和5年3月

編集発行 東京都環境局

新宿区西新宿二丁目8番1号
TEL03(5388)3555

印刷 株式会社国際地学協会

イラスト 川上洋一、(有)ゼフィルス 御手洗 望

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙をリサイクルできます。

VEGETABLE OIL INK

2000

古紙・PET配合率100%再生紙を使用